行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒106-8569
東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所 村上研究室
Tel & Fax 03-5421-8766

新理事長に選ばれて

杉山明子

図らずも日本行動計量学会の理事長に選ばれ、その責任の重さをひしひしと感じております。

学会創立(1973 年)に際して趣意書文言の検討会への参画に始まり、学会賞の選考方法を検討した京極委員会、会報の題字を林先生に書いて頂いた時、白熱した議論の水野運営委員会など、これまでのことが走馬灯のように思い出されました。

また、学会のホームページで趣意書を読み直し、「相異なった専門領域の研究者が、学会という場面で方法論に関し意見を交換しあう」学会であることを再確認いたしました。最近は、大会総会のほかにも、シンポジューム、講習会、小グループ研究会、和文誌・欧文誌の出版、会報の発行など、活発な学会活動が行われていることも、あらめて想起いたしました。

学会設立の志を立ててからはや 30 年近く、学会活動もこのように多彩になって来ております。学会のさらなる発展のために、若い会員の要望を如何に受け止め学会運営に生かすかが、新しい理事会に与えられた第 1 の課題です。当面は、各委員(運営委員、編集委員)にできるだけ若い方を選出することになりました。長期的には、理事の選挙方法の改善、理事規定の再考などについて、いろいろな意見が出されております。いずれ成案ができましたら総会に諮ることになると思います。

第 2 の課題は、「理論と応用のバランス」をより図ることです。学際的な学会ですので、異なる分野の研究者たちが理解できる言葉で話し合い、開発された理論を応用して社会現象の解析をすることが使命です。これら理論と応用の橋渡しをするのが、この学会の大きな役割であり、ますます複雑化する社会の各方面からも要望されていることです。

4 月初旬の第 1 回理事会では新しい役職者が決りました。地方在住の欧文誌編集委員長や女性の運営委員長が誕生し、会報担当のため若手の方を理事登用するなど、いくつかの試みがなされております。(2 ページ 参照)

これからは皆さまのご協力を頂き、学会のさらなる発展のために微力を尽くしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

(杉山明子, msugi@twcu.ac.jp)

新委員長・担当理事

＜委員長＞

編集委員長	繁桝 算男
和文誌編集委員長	久保 武士
欧文誌編集委員長	狩野 裕
運営委員長	山岡 和枝
組織検討委員長	岡太 彬訓

＜担当＞

事務局	村上 征勝
広報(会報)担当	菊地 賢一
名誉会員担当	上笹 恒
大会担当	岩坪 秀一
各賞選考担当	村上 征勝

委員長ご挨拶

和文誌編集委員長挨拶

和文誌編集委員長 久保武士

大学を停年退官しましたが、もう一年和文誌の編集委員長を務めさせていただくことになりました。欧文誌は繁桝編集委員長時代に雑誌のquality が一層高まり、広く世界に distribute されるようになりましたが、それに習って和文誌もquality が一層高くなることを念じています。そのためには投稿原稿が多くなる必要があります。そして多くの読者から投稿して頂くには、採否ができるだけ早く判明しなければなりません。査読者のできるだけ早い判定を心からお願い致します。

欧文誌編集委員長を仰せつかりました

欧文誌編集委員長 狩野 裕

「英語で書かれた国内向けの雑誌であってはならない」というのが、繁桝算男前編集委員長からの引継ぎ事項である。これをモットーに、日本と世界の行動計量学の発展に大いに寄与する雑誌に発展させたい。「インパクトのある論文が掲載される」⇒「サイテーションが増える」⇒「インパクトのある論文の投稿が増える」という好循環を達成することが重要である。

20 世紀は分化の時代であり、細かく専門を分割することで専門性を深めていった。21 世紀はその反省がみられ、学際的な領域が発展するだろう。行動計量学は正に学際性豊かな学問領域であり、21 世紀には大きなブレイクスルーが期待される。欧文誌 Behaviormetrika がその中心的な役割を果たせるよう、編集委員の先生方と知恵を出し合い、委員会を運営していきたいと考えている。

運営委員長をお引き受けして

運営委員長 山岡和枝

このたび岡太委員長に代わって運営委員長を務めることになりました。運営委員会は学会の様々な活動に深く関係し、学会の活性化に役立つという重要な役目を持っており、シンポジウム、講習会、チュートリアルセミナー、合宿セミナーなどの行事を運営しております。このような学会活動の中心となって活動されて来られた岡太委員長の後を引き継ぐのは気の引ける思いです。

本学会はホームページの概要にも記載されておりますように「特定の手法や分野が中心の学会ではなく、また理論あるいは応用のどちらかを中心にした学会でもなく、諸科学を総合する学際的・横断的な学会である」ことを目指しております。こういった研究活動を少しでも深めるためには、幅広く、会員の皆様の総意で運営されなければなりません。皆様一人ひとりの声をバックに理事会との架け橋として微力ではありますが、委員長の重責を努めさせていただく覚悟であります。もし、セミナーや今後の学会活動に対してのご要望、あるいは運営に対するご意見などがございましたら、運営委員会まで是非お聞かせ下さい。そして、会員の皆様の大会、セミナー、シンポジウム、などの行事へのご参加を心よりお願いいたします。

組織検討委員会

組織検討委員長 岡太彬訓

組織検討委員会は、これまでの会則検討委員会を発展的に改組して今期の理事会で新設された委員会です。学会の会則だけでなく、より広

く学会の組織のあり方を見直すことが目的です。組織の見直しによって、学会がいままで以上に行動計量学の研究の進展や研究成果の社会への還元に大きく寄与できることを目指したいと考えています。この数年間、学会へ新規に入会された方々は、比較的年齢が若く、また、その専門分野は従来に比べて多岐にわたっているのではないかと思います。さまざまな分野におけるさまざまな年齢層の、そして、多様な関心をもった1,000名以上の会員の研究に大きく資することができるような学会の組織を考えたいと思っております。

学会誌掲載論文ならびに大会発表論文等の著作権規定について

昨年度の総会で承認されましたように、学会誌ならびに大会抄録に採択発表される論文等の著作権規定を以下のように明確に学会誌等に記すことに致します。これにもとづいて、これから掲載される論文等は学術情報センター電子図書館サービスのデータベースに登録され、一般公開されるべく手続きを進めたいと思います。以後学会誌等に投稿される方はそのことを予めご承知置きください。(ただし、特別の事情あるケースの場合は事前に欧文誌、和文誌については当該編集委員長に、また学会発表論文抄録については当該大会実行委員長に申し出てください。)

著作権に関する規定

"行動計量学"、"Behaviormetrika"および"日本行動計量学会大会発表論文抄録集"に掲載された著作物について、以下のように定める。

a. 当該著作物の著作権は日本行動計量学会に帰属するものとする。ただし、著作者人格権に限り著作者に帰属するものとする。

b. 日本行動計量学会は、上記著作物または他の情報媒体(電子媒体を含む)を通じて，当該著作物およびその書誌情報を公表することができる。

日本行動計量学会

日本行動計量学会 第28回大会

既にお手許に第1号通信が届いていることと思いますが、10月7、8、9日と、東京大学教養学部で第28回大会が開かれます。連休と重なり、何かと、ご予定の可能性があるかもしれませんが、是非、こちらを優先して、ご参加されますようお願い致します。今度の大会では、関連する学会との合同のセッションが多く企画されており、行動計量学会の会員の皆様の方法論の深さ、鋭さ、効用と、また、実質科学のいろいろな側面に対する多様な興味の持ち方が試されるともいえます。

重要な締切日についてここでもう一度お知らせいたします。

特別セッション企画締切	**平成12年6月20日**
〔できれば早めにお願いします。〕	
一般研究発表申込締切	**平成12年6月20日**
抄録原稿締切	**平成12年7月21日**

ホームページ:
http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/

メール:
BSJ2000-appl@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

からも、申し込みができます。

実行委員長　繁桝算男

日本行動計量学会主催 第3回春の合宿セミナー報告

平成12年3月30日から4月1日までの3日間愛知学院大学で開催いたしました日本行動計量学会主催第3回春の合宿セミナーは、講師陣、運営委員長、実行委員、一般参加者を含め合計213名の参加を得て盛況の内に終了いたしました。セミナーを支えていただきました講師の皆様、アルバイト学生・院生の皆様、運営委員長、一般参加者の皆様に心から感謝の意を表します。

また、セミナーのために昨年12月1日に開設し

ましたウエブページのヒット数も5000回を越え、たくさんの方に本学会の合宿セミナーの存在を知っていただけたと喜んでいます。もっとも、セミナーへの正式登録の途中で、ウエブサーバ上のファイルが不測の事態により消えてしまい、登録者の一部の皆様には再度登録をお願いし、ご迷惑をおかけしました。あらためてお詫び申し上げます。

今回のセミナーの特徴は、ウエブページでもご紹介しましたように、非会員の皆さんが全体の3分の2と多かったことです。しかも学生・院生の皆さんで非会員の方が多かったという点です。実際、セミナー参加時に会員申し込みをなされた方が20名以上おられたこともこれを反映していると言って良いでしょう。

また、3日間の各セミナー会場の参加希望者も今回は120名を越えるケースが続出したのも大きな特徴と言えましょう。第2回の合宿セミナーの時と同様、今回も懇親会を1日目と2日目の夕方に2回開催しましたが、今回の場合は(実際の参加者はともかくとして)2回とも参加予定者でみますと90名を越えていました。もっとも、気候の不順が原因と思われますが期間中にサクラが全く咲かなかったのは花見パーティに対する皆さんの意気込みを削ぐ結果になったのではと思います。

最後に、今回のセミナー会場の1つでは協賛企業の1つになっていただきましたソニーマーケティング(株)からは高解像度の液晶プロジェクタをお借りしたり、合計14企業から協賛費をいただいたりと、協賛企業の皆さんにはたいへんお世話になりました。それらは、エス・ピー・エス・エス(株)、北嶋工業(株)、(株)現代数学社、教育産業(株)、(株)熊谷組、(株)SAS インスティチュートジャパン、(株)人事測定研究所、(株)数理システム、スタットソフトジャパン(株)、東海通信工業(株)、(株)成文堂、ソニーマーケティング(株)、(株)トーエネック、(株)東芝中部支社です。ここに記して感謝の意を表したいと存じます。

第3回春の合宿セミナー実行委員会
村上隆、野口裕之、仁科健、竹内一夫
会場校責任者(文責)千野直仁

関連学会等カレンダー

＜学会大会等＞

☆ 日本人間工学会第41回大会

会　期:2000年6月28日(水)、29日(木)
会　場:アルカディア市ヶ谷(私学会館)他
照会先:日本人間工学会第41回大会事務局 日本大学 生産工学部 管理工学科 人間工学研究室内
Tel:047-474-2615(坂下、井村、安田)
FAX:047-474-2619
E-mail:n6jes41@ccu.cit.nihon-u.ac.jp
http://www.ccu.cit.nihon-u.ac.jp/~n6jes41/index.html

☆ 日本認知科学会第17回大会

会　期:2000年6月30日(金)～7月2日(日)
会　場:静岡文化芸術大学
(静岡県浜松市野口町1794-1)
照会先:認知科学2000事務局
〒432-8011 静岡県浜松市城北3-5-1 静岡大学情報学部内
Fax:053-478-1499
Tel:053-478-1474(伊東幸宏)
E-mail:jcss2k-question@cs.inf.shizuoka.ac.jp
http://jcss2k.cs.inf.shizuoka.ac.jp/

☆ 2000年度人口知能学会全国大会(第14回)

会　期:2000年7月4日(火)～7日(金)
会　場:早稲田大学国際会議場
照会先:〒161-0033 東京都新宿区下落合3-17-42
「連企画」気付「2000年度人工知能学会全国大会事務局」 Tel:03-3950-1641
E-mail:ren.associates@ma3.justnet.ne.jp
http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsai/

☆ 第68回日本統計学会大会

会　期:2000年7月25日(火) ～ 28日(金)
(7月25日はチュートリアル・セミナー)
会　場:北海道大学学術交流会館
(JR札幌駅、地下鉄札幌駅から徒歩5分)
共通テーマ:金融工学と統計分析、計量経済学におけるマルコフ連鎖モンテカルロシミュレーション、我が国におけるマイクロデータ提供の展望、環境汚染の健康影響評価をめぐる統計的諸問題、臨床試験の計画、医薬品の市販後臨床試験、因果

推論のための統計的方法、統計学におけるインターネットの高度利用、統計科学情報の高度利用他
照会先：日本統計学会 Web Page:
http://www.jss.gr.jp/

☆ 産業・組織心理学会第16回大会

会　期：2000年8月29日(火)、30日(水)
会　場：北海道工業大学
照会先：大会準備委員会(北海道工業大学内)
Tel:011-681-2161(内線289)

☆ 日本応用心理学会第67回大会

会　期：2000年9月9日(土)、10日(日)
会　場：神戸親和女子大学
照会先：神戸親和女子大学人間科学科　坂野登
Tel:078-591-3903、Fax:078-591-2279

＜シンポジウム等＞

☆ 第3回情報論的学習理論ワークショップ (Information-Based Induction Sciences: IBIS2000)

会　期：2000年7月17日(月)、18日(火)
会　場：ラフォーレ修善寺(静岡県伊豆修善寺)
主催：情報理論とその応用学会
特別セッション：「実践的ベイズ法」他
内容：知識情報処理における統計的推測(モデル選択規準、ベイズ推定、予測理論、情報幾何学、ユニバーサル符号化　等)、機械学習、学習理論、統計力学的学習、計算量統計学、複雑さの理論、各種表現系(ニューラルネットワーク、ベイジアンネット、Graphical Models 等)、進化アナロジーによる最適化・学習　等、およびそれらの応用(パターン認識、画像処理・理解、自然言語処理、ロボティクス、データマイニング、金融工学、時系列解析、生体情報処理　等)
照会先：村山立人
東京工業大学大学院総合理工学研究科知能システム科学専攻　樺島研究室
〒226-8502 横浜市緑区長津田町4259
E-mail:ibis-sec@fe.dis.titech.ac.jp
http://kaba.fe.dis.titech.ac.jp/~ibis2000

☆ 第16回ファジィシステムシンポジウム ーファジィとノン・ファジィの統合ー

会　期：2000年9月6日(水)～9月8日(金)
会　場：秋田公立美術工芸短期大学
(〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3)
主催：日本ファジィ学会　(協賛予定：日本行動計量学会他)
照会先：学会ホームページ
http://soft.amcac.ac.jp/fss2000/index.html
大会実行委員長　中津山　幹男
(秋田公立美術工芸短期大学　産業デザイン学科)
〒010-1632 秋田市新屋大川町12－3
TEL:018-888-8111、FAX:018-888-8109
E-mail:nakatsu@amcac.ac.jp

＜チュートリアル等＞

☆ 日本統計学会第8回チュートリアル・セミナー

期　日：2000年7月25日(火)、午前、午後
会　場：北海道大学
テーマ：
1. 非線形多次元データ解析入門
2. 金融工学と統計分析
(午前と午後各1テーマ)
照会先：日本統計学会 Web Page:
http://www.jss.gr.jp/
日本統計学会事務局
〒106-8569 東京都港区南麻布4-6-7
統計数理研究所内
Tel:03-3442-5801、Fax:03-3442-5924

公募情報

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、研究者等の公募情報の詳細については、文部省国立情報学研究所(学術情報センターより平成12年4月1日改組)の「研究者公募情報提供事業」(NACSIS-CIS)の下記 Web ページも参照して下さい。

http://cis.nacsis.ac.jp/

ただし、以下には、同ページに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆ 立教大学理学部

採用人員：講師以上1名
専門分野：解析学、応用数学、計算機数学など
応募期限：2000年6月15日
採用予定：2001年4月1日
照会先：立教大学理学部数学教室
主任　佐藤文広
E-mail:sato@rkmath.rikkyo.ac.jp
Tel:03-3985-2462(数学事務室)
Fax:03-3985-2810

☆ 筑波大学社会工学系

募集分野：社会・経済シミュレーション分析（経済実験、ゲーミング）
採用人員：講師1名
所属：社会工学系
勤務場所：筑波大学社会工学類、大学院修士課程経営・政策科学研究科
応募期限：2000年6月30日
採用予定：2001年4月1日希望
照会先：〒305-8573 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学社会工学系　金子　守
Tel：0298-53-5180、Fax：0298-55-3849
E-mail：kaneko@shaoko.sk.tsukuba.ac.jp

☆ 京都大学大学院医学研究科

所属：社会健康医学系専攻健康解析学講座（ゲノム疫学）
職務内容：ゲノム疫学に関する研究・教育
採用人員：教授1名
応募期限：2000年6月30日
照会先：〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町
京都大学医学部専門職員（人事担当）宛

☆ 鳴門教育大学学校教育学部

講座等名：教育経営講座
採用人員：助教授または講師1名
専門分野：教育経営学（集団心理学又は社会心理学）
応募期限：2000年6月30日
採用予定：2001年4月1日
照会先：〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地　鳴門教育大学学校教育学部
教育経営講座　佐古秀一
Tel：088-687-6256、E-mail：sako@naruto-u.ac.jp

☆ 秋田大学医学部

講座等名：衛生学講座
採用人員：教授1名
専門分野：衛生学・公衆衛生学
応募期限：2000年6月30日
照会先：〒010-8543 秋田市本道 1-1-1
秋田大学医学部総務課人事係
Tel：018-884-6010

☆ 電気通信大学電気通信学部

採用人員：教授もしくは助教授1名
所属：人間・機械システム学講座（大講座）ヒューマンインターフェース分野
専門分野：人間工学・認知工学・仮想現実（視覚、聴覚、触覚）・人間機械系・遠隔操作系　等
着任時期：2001年4月1日
応募期限：2000年6月30日
照会先：〒182-8585 調布市調布ヶ丘 1-5-1
電気通信大学電気通信学部知能機械工学科
学科長　本間　恭二　専攻担当教授　宮嵜　武
Tel：0424-43-5390、Fax：0424-43-3327
E-mail：miyazaki@mce.uec.ac.jp

☆ 岡山大学経済学部

採用人員：教授または助教授1名
担当科目：《大学院》ビジネス統計分析　《学部》統計解析法　（多変量統計解析法及びその指導ができる者）
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年6月30日
照会先：岡山大学経済学部経済計測講座
教官　長畑秀和　Tel：086-251-7530
岡山大学文学部・法学部・経済学部庶務係
Tel：086-251-7345

☆ 関西学院大学理学部

所　属：理学部物理学科（数学）
採用人員：教授、助教授、または専任講師3名
専門分野：代数学、微分方程式、数値解析、統計数学（確率論を含む）
着任時期：2002年4月1日
応募期限：2000年7月14日
照会先：関西学院大学理学部　藪田公三
Tel：0798-54-6496
E-mail：yabuta@kwansei.ac.jp
http://science.kwansei.ac.jp/~plan/recruitmath.html

☆ 大分大学工学部

学　科：知能情報システム工学科
採用人員：教授1名
専門分野：数学（専攻分野は問わず）
教　育：教養科目、工学部の専門基礎科目（線形代数、微積分等）、大学院生向け講義（工学系学生対象）
採用予定：2001年4月1日
応募期限：2000年8月25日
照会先：〒870-1192 大分市旦野原700番地
大分大学工学部知能情報システム工学科（情報科学基礎）
佐藤　静　e-mail：sashizu@cc.oita-u.ac.jp

会員の著書等

☆ 朝野熙彦・上田隆穂 「マーケティング&リサーチ通論」 講談社, 2000 年.
☆ 島崎哲彦 「社会調査の実際－統計調査の方法とデータの分析」 学文社, 2000 年.
☆ 豊田秀樹 「共分散構造分析[応用編]－構造方程式モデリング－」 朝倉書店, 2000 年.
☆ イアン・ハッキング著 石原英樹訳 「偶然を飼いならす－統計学と第二次科学革命」 木鐸社, 1999 年.
☆ 平山朝子・宮地文子編／村田篤司・片平洌彦著 「公衆衛生看護学大系〈8〉 疫学・保健統計学」 日本看護協会出版会, 1999 年.

日本行動計量学会 Web ページ

http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html

第 28 回大会 Web ページ

http://gauss.c.u-tokyo.ac.jp/BSJ2000/

日本行動計量学会会員数

(2000 年 5 月 12 日現在)

正会員	990 名
準会員	54 名
名誉会員	6 名
賛助会員	19 社

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財)日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL:03-5814-5810
FAX:03-5814-5825

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」
〒305-8575 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL: 0298-53-3071, FAX: 0298-53-3072
e-mail : sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」
〒565-0871 吹田市山田丘 1-2
大阪大学人間科学部
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
狩野 裕

編集後記

今号から、担当が菊地賢一・前田忠彦にかわりました。前号の編集後記には「乞う、ご期待」と書いてくださっていますが、前担当の山岡先生までに積み上げられてきたものを崩さないよう努力していきたいと思います。といっても、今までと全く同じでは進歩がありませんので、今後皆様のご意見を伺いながら、会員の皆様のよりお役に立つような会報を目指していきたいと考えております。

ご意見・ご要望などございましたら、下記の会報原稿送付先まで、ぜひお聞かせください。また、学会 Web ページも担当しておりますので、こちらの方へのご意見・ご要望もお待ちしております。最後になりますが、これから3年間よろしくお願いいたします。

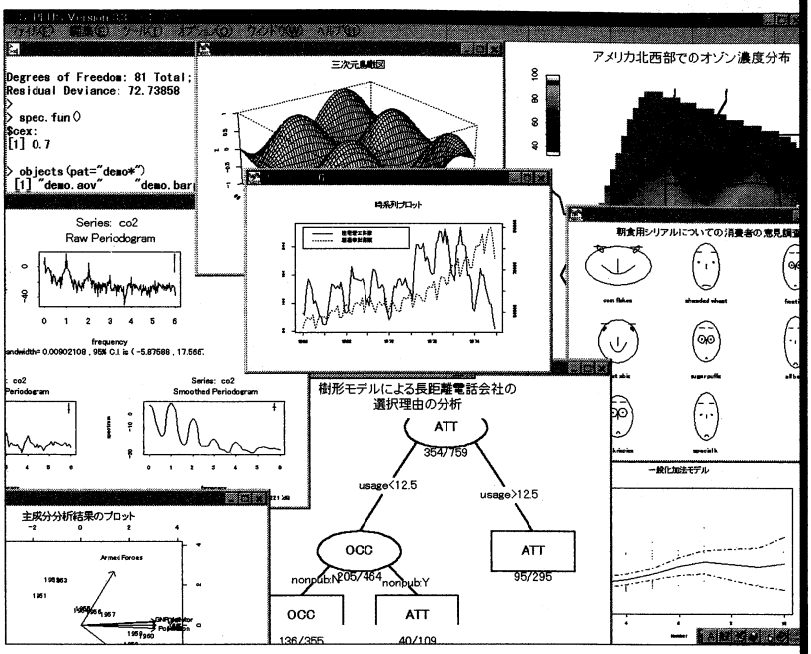
会報原稿送付先

皆様からの情報をお待ちしております。
〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23
大学入試センター研究開発部
菊地賢一 kikuchi@rd.dnc.ac.jp
TEL:03-5478-1273
FAX:03-5478-1297

会報作成担当:菊地賢一・前田忠彦

MATHEMATICAL SYSTEMS INC.

創造あふれる研究開発のための
オブジェクト指向データ解析システム



S-PLUS

全国の著名企業・研究機関・大学での豊富な実績を誇ります

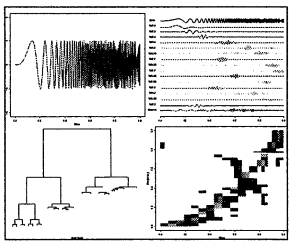
S-PLUSは高度なデータ解析機能と豊富なグラフィックス機能の両方を備えた本格的なデータ解析システムです。
対話型の素早い明快な処理で利用者の創造性を大幅に支援し、オブジェクト指向に基づく卓越したデータハンドリング能力により、データの可視化・再加工・再解析というフィードバックループを納得いくまで何度も繰り返すことができます。

主な特長

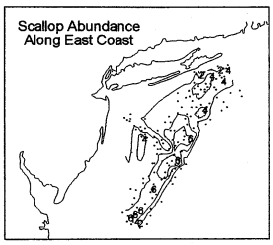
- ●一千以上の高度で最新の解析機能
  （基本演算、行列演算、探索的データ解析、線形代数、時系列解析、多変量解析、各種回帰分析、分散分析、線形モデル、検定、シミュレーション、OR　その他）
- ●数十種類のカスタマイズ自在なグラフィックス機能。
- ●オブジェクト指向のS言語による本格的なプログラミング機能により、個別の解析システムを簡単に構築できます。GUI構築ツールを備え、DDEやOCBCにも対応します。
- ●常設のトレーニングコースその他の強力なサポートでソリューションを側面支援します。数理科学を専門とするスタッフが、個別のコンサルティングにもお応えします。

特定分野ソリューションのためのアドオンモジュール

- ●S+WAVELETS　話題のウェーブレット解析のための500以上の機能
- ●S+DOX　実験計画法のための数多くの関数とグラフィックス
- ●S+SpatialStats　環境・資源工学などで話題の本格的空間統計モジュール
- ●S+GARCH　金融工学などで話題のGARCHモデルのために
- ●S+AVS　高性能3次元CGツールとAVSとのリンクモジュール
- ●S+GISlink　地理情報システムARC/INFOデータを本格的に解析可能



S+WAVELETS



S+SPATIALSTATS

対応機種、OS	主要UNIX *SunSPARC、HP9000、IBM(AIX)、DECalpha (UNIX)、SGI、NEWS*	Windows *DOS/V、PC98(Windows95、NT)*

※S-PLUSはMathSoft,Inc.が開発しライセンスしています。
※AVSはAdvanced Visual Systems Inc.が開発しライセンスしています。
※会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。
（詳しい製品情報はS-PLUSホームページhttp://www.msi.co.jp/splus/をご覧ください。）

S-PLUS無料紹介セミナー定期実施中
当社新宿セミナールームにて、一人一台のパソコンを用いてS-PLUSをご説明さしあげています。お気軽にお申し込み下さい。

S-PLUSおよびAVSのお問い合わせ先

株式会社 数理システム S-PLUSグループ
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-4-3 フォーシズンビル10F
TEL.03-3358-6681（直通） FAX.03-3358-1727
e-mail:splus-info@msi.co.jp（URL）http://www.msi.co.jp/splus/
お問い合わせ：平日10:00～17:00（FAX、e-mailは24時間随時）